

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

平成26年度第7回 理事会 議事録

開催日時：平成 26 年 10 月 9 日（木曜日）12：00-14：00

開催場所：城山観光ホテル 3 階 松竹

出席した理事：持田 讓治（理事長）、田口 敏彦（副理事長）、紺野 慎一（専務理事）、吉田 宗人（専務理事）、小森 博達（常務理事）、山崎 正志（常務理事）、井口 哲弘、岩崎 幹季、竹下 克志、根尾 昌志、橋本 友幸、長谷川 徹、波呂 浩孝、平林 茂、平泉 裕、松山 幸弘

出席した監事：小西 宏昭、松永 俊二

以上、理事 16 名、監事 2 名

〔議事の経過の要領及びその結果〕

持田讓治理事長は定款の定めにより議長となり、開会を宣言し直ちに議事に入った。会に先立ち、持田理事長が審議・決議事項の議題の順番について、第四議案を最初に審議し、次に第一議案、その後第二号議案、第三号議案へ進めたいと提案し、一同了解した。

決議事項

1. 第 1 号議案 日本脊椎脊髄病学会名誉会員選定についての申し合わせ事項

持田理事長が、名誉会員の選定対象者や決定時期、決定方法、決定後の対応について提案した。

一同賛同し、後日小森理事が文面を修正して Eメール上の理事会で報告することになった。

2. 第 2 号議案 慢性腰痛プロジェクト研究における参加者へのインセンティブの件

松山理事が、昨年から実施されている慢性腰痛プロジェクト研究について、インセンティブを明言し、登録増加への起爆剤としたいと提案した。

1 症例提出ごとに 1 万円のインセンティブを出すことについては承認された。

多数の症例（5 症例以上）を出した施設への特典は安全医療講習会出席に該当できる証明書を出すということになった。

3. 第 3 号議案 XLIF と OLIF の件

新技術等検証委員会の岩崎理事から、XLIF と OLIF の症例登録について報告があった。

岩崎理事と松山理事で話し合ってもらい、プロジェクトプランを出してもらったこととなった。

4. 第4号議案 2017年第46回学術集会のコンベンションの件

根尾理事が、第46回学術集会のコンベンションについて、コングレ・JCS・JTJの3社の計画書と見積書を提出した。

学術集会等プログラム検討委員会での検討の結果、コングレに決定したとの報告があった。

理事会でも満場一致で、コングレに決定した。

5. 第5号議案 7月～9月の新入会・退会について

事前審議の結果が示され、承認された。

6. 第6号議案 大正富山 AWARD 選考委員の件

事前審議の結果が示され、承認された。

7. 第7号議案 外保連からの原稿執筆依頼状の件

事前審議の結果が示され、承認された。執筆者については、先方の依頼もあり金沢大学の村上英樹先生に依頼することになった。

審議・報告事項

1. 用語事典改訂作業の進捗状況の報告

小森理事より用語事典の改訂作業について、8月中に2度委員会を開催し、順調に進んでいると報告された。

2. 銀行口座について

小森理事が、すでに学会会計は指導医会計やアジアフェロー会計といった別はなく、統一されたが、通帳だけは以前のままいくつかに分かれているので、口座を整理しているとの報告があった。

3. SASのファカルティー参加に伴う旅費について

松山理事が、ハワイ島で行われるSASの旅費やホテル代を部分的にでも援助したいと提案した。

持田理事長が、松山理事のほうで金額についての案を作るよう指示し、松山理事が了解した。

4. JSR 学会誌電子化について

平林理事が 2015 年 1 月号からの JSR 学会誌電子化にともない、会員全員に対して紙媒体学会誌の要不要調査を実施中との報告をした。

JSR に掲載する広告の幅を広げることについて検討した。

持田理事長が、他にどのような企業等へ依頼していくかについて JSR 編集委員会にて再度検討のうえ、理事会審議へかけてもらえるようお願いしたいと依頼した。

JSR 学会誌の英文化を進めるために、評議員へ原稿執筆に関する依頼文を出したいとの提案があった。

評議員への依頼は問題ないが、その目的がインパクトファクターの取得等であれば、組織立って実現へ向けたプランを練る必要があるとの意見があった。

現状 2 号分ある西日本脊椎研究会（以下、西日本）の特集号を 1 号分とし、もう 1 号については来年（2015 年）のみ、JSR 編集委員会が執筆する英文号とすることについては、JSR 編集委員会単独で決めてよいことではなく、理事会マターであるため、一度白紙撤回することとなった。そのうえで、いくつかの学会が共同して出版している雑誌なので、事実確認をしてから再度検討することとなった。

事前審議・報告事項

1. メールアドレス調査についての報告

小森理事が、8 月に全会員を対象に行ったメールアドレス調査について、件数等をまとめた報告書を提出し、85%程度の登録が完了していると報告した。

2. 社会保険等システム検討委員会議事録の件

平泉理事が、12 月に厚労省に要望書を提出する必要があるため、緊急アンケートを実施したいと提案した。

小森理事が、メールアドレスの登録がかなり進んだので、指導医約 1300 名宛にメール送信してはどうかと提案し、承認された。

3. 脊椎脊髄外科専門医の件

波呂理事が、専門医研修基幹施設の調査で現状 267 の施設の登録があったが、大学でも申請のないところが7つあったと報告した。

問題集についても、9名の委員で内容の確認も行っている最中で、今月南江堂にて会議を開催予定との報告があった。

4. その他

根尾理事より、安全医療推進委員会で進めていた合併症調査の論文作成について、JOSへ投稿しアクセプトされたことが報告された。

以上

平成 26 年 10 月 9 日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 持田 讓 治

監 事 小 西 宏 昭

監 事 松 永 俊 二